

## 主旨説明

### 2019年10月2-8日のデニ・ムクウェゲ医師の来日について

2019年8月22日

コンゴの性暴力と紛争を考える会 代表

米川 正子

#### 1. はじめに

2018年ノーベル平和賞受賞者でコンゴ民主共和国（以下、コンゴ）の婦人科医であるデニ・ムクウェゲ医師が来日されることを、コンゴの性暴力と紛争を考える会（ASVCC）<sup>1</sup>を代表して、お喜び申し上げます。今回の来日は、ムクウェゲ医師が現在行っている「平和、正義、女性の権利」に対する世界的なキャンペーン活動の一環です。ノーベル平和賞受賞以来初の来日ですが、2016年10月の初来日から数えて2度目の来日となります。

ASVCCは、東京大学、NGOピースボートならびに立命館大学と連携して、ムクウェゲ医師の来日を支援いたします。今回の来日には、三菱財団、庭野平和財団、高木市民科学基金（順不同）とさまざまな団体よりご支援をいただいています。

ムクウェゲ医師は、戦争の武器としての性暴力を撲滅する活動に尽力され、2018年にイラク人人権活動家ナディア・ムラド氏と共にノーベル平和賞を受賞しました。世界中の紛争地域において性暴力が長年、武器として使用されてきたにもかかわらず、ノーベル平和賞委員会が紛争下の性暴力の根絶に貢献した人物に対し同賞を授与したのは初めてのことでした<sup>2</sup>。

#### 2. ムクウェゲ医師来日の目的

以下の目的を達成するため、ムクウェゲ医師は日本政府高官や関連団体と面談し、東京（東京大学）、広島（平和記念館）、京都（立命館大学）で講演会を行います。また、研究者、女性団体、医師、被爆者および学生と意見交換する予定です。

##### 目的1. コンゴで今もなお続く性暴力、紛争鉱物利用とグローバル経済のつながり、および脆弱なガバナンスの問題に対する問題意識を高めるため

1996年コンゴ東部で紛争が勃発して以来、性暴力があまりにも日常化したため、コンゴ東部はかつて「世界のレイプの中心地」、「女性と少女にとって世界で最悪の地」と揶揄されました。性暴力は特にコンゴの豊かな鉱物資源を支配する目的で、政府側、反政府側双

---

<sup>1</sup> 2016年にASVCCを設立したのは、コンゴ東部における性暴力、紛争鉱物およびグローバル経済の関係性について問題意識を高めるためです。ASVCCは、ムクウェゲ医師の活動を描いたドキュメンタリー映画『女を修理する男』の日本語字幕版を完成後、全国で上映会を企画しました。その他、コンゴに関する研究を行なっています。

<sup>2</sup> 過去に、同様の分野において貢献したノーベル平和賞受賞者は次の通りです。1931年ジェーン・アダムス（アメリカ）：婦人国際平和自由連盟（WILPF）の創設者、武器を捨て、平和条約を締結するため、女性達が力を集結するよう尽力した。1946年エミリー・グリーン・ボルチ（アメリカ）：戦争についての自らの見解を発言し、恒久平和のために力を注いだWILPFの中心的指導者。2004年シーリーン・エバーディー（イラン）：民主主義および人権、特に女性と子供達の権利のため尽力した人物。2011年エレン・ジョンソン・サーリーフ（リベリア）、レイマ・ボウイ（リベリア）、タワックル・カルマン（イエメン）：女性の安全および平和構築活動に女性が参画する権利のため、非暴力的活動に力を注いだ。

方の武装勢力によって行われ、直接的あるいは間接的にグローバル経済に利益をもたらしています。コンゴの平和を回復し性暴力を根絶することは、持続可能な開発目標（SDGs）達成のためにも重要です。持続可能な開発、経済および包括的な成長への貢献、そしてSDGs達成において、コンゴの女性達が中心的存在となり得るという可能性に私たちは目を向けなければなりません。

## 目的 2. 核兵器廃絶と同様に、戦争の武器としての性暴力を根絶し、加害者の不処罰を根絶することの重要性に対する問題意識を高めるため

末端の兵士から指導者まで、すべての性暴力加害者が刑事責任を訴追されなければ、次世代以降も性暴力の悪循環は続きます。国際刑事裁判所（ICC）の主任検察官は性暴力および性別に基づく暴力の起訴を推進し、その調査を優先事項としています。しかしICCにおいて性暴力犯罪に対する最終的な有罪判決が初めて下されたのは、2019年7月8日、コンゴ北東部にて戦争犯罪行為などで逮捕・起訴されたボスコ・ンタガンダでした<sup>3</sup>。

## 目的 3. 世界平和と安定のための必須条件として、性暴力根絶のための行動ならびに女性の権利向上を呼びかけるため

性暴力根絶のために問題意識を高めることと、実際に行動を起こすことは異なります。性暴力が蔓延し、加害者が処罰されない状況が容認されている以上、世界に恒久的な積極的平和は存在しません。さらに、男女間の社会政治的および経済的不平等に加えて、女性に対する暴力が、国家の不安定性、国内紛争、さらには国際紛争のリスクを増大させることが認識されています。そのため、女性に対するあらゆる形の暴力を撲滅することは、グローバル社会における平和、安全、安定を実現するために重要です。

## 目的 4. 性暴力、人権、平和、民主主義といった問題に関する、ムクウェゲ医師の意識啓発活動に賛同し、人的および経済的支援を提供したり、研究を行ったりする個人および団体からの支援を得るため

コンゴおよびアフリカにおける諸問題に対する関心が高まっているとはいえ、日本国内で本問題を専門とする研究者や個人はまだ限られています。

ムクウェゲ医師の来日を通じ、下記が達成されることが期待されます。

- (1) 世界中の性暴力根絶における日本政府のより強いリーダーシップが発揮されること
- (2) 国家的、地域的および国際的な司法制度強化における日本政府のより強い役割が発揮されること
- (3) 紛争下と平時下の両方において性暴力は人権侵害行為であること、性暴力根絶のため女性はもっと声を上げる必要があることについての国民の認識の向上すること
- (4) コンゴ、アフリカ政治、紛争、平和学等に関する関心の高まり、研究者と支援者数を増加させること

---

<sup>3</sup> コンゴ東部における性暴力は今までICCで起訴されたことはない。

### 3. ムクウェゲ医師来日の適時性

ムクウェゲ医師が2016年に来日した際、欧米と異なり、日本の多くのメディアは医師のことを知りませんでした。ASVCCは可能な限りムクウェゲ医師の映画上映会を行って彼の功績を説明し、メディアを動員しました。

今回の訪日では、ムクウェゲ医師の「ノーベル平和賞受賞者」という地位によって、そのような動員は不要となりました。彼の名は日本の活動家の間では広く認知されるようになったからです。ムクウェゲ医師は、コンゴの女性たち（そして男性たち）やその他紛争地域の女性たちのみならず、世界中の女性たち、特に「平時下」における性暴力のサバイバーにとっての英雄です。紛争地と平時下における性暴力の目的や性質は異なりますが、両者とも女性の身体を虐待し、そして女性の権利を完全に侵害している点で共通の性質を有します。

日本では時おり報道される性犯罪以外にも、女性に対する差別は現在も起きています。2016年以降の象徴的な出来事の一つとして、2018年6月に発覚した東京医大の入学者選考問題が挙げられます。過去10年以上にわたり大学側が入学試験結果の点数を意図的に改ざんすることにより、女子生徒数を制限しより多くの男性医師を確保してきました。

### 4. ご寄付のお願い

最後にこの場をお借りして、ムクウェゲ医師来日の実現をご支援いただく皆様のご厚意に対し御礼を申し上げます。

また、本主旨説明をお読みいただいている皆様に、ムクウェゲ医師の世界的なキャンペーンにお力添えいただきたく存じます。本寄金が、世界中の性暴力撲滅と加害者の不処罰の根絶への第一歩となります。振込先口座は下記の通りです。

三菱UFJ銀行 調布支店 普通 0469236

振込先名: コンゴの性暴力と紛争を考える会 代表 米川正子

(コンゴノセイボウリョクトフソウヲカンガエルカイ ダイヒョウ ヨネカワマサコ)

コンゴの性暴力と紛争を考える会 (ASVCC) が責任を持って、皆様からの寄付金をムクウェゲ医師が運営するパンジ基金にお届けします。また大変お手数ですが、お振込後、ASVCCのメールアドレス [congomm2016@gmail.com](mailto:congomm2016@gmail.com) まで、寄付金についてご連絡いただくと幸いです。

またパンジ基金に対し直接ご支援いただくことも可能です。

<https://www.panzifoundation.org/donate>

皆様のご協力とご理解を賜り、深く御礼を申し上げます。

2019年10月のムクウェゲ医師の来日時にお会いできることを楽しみにしております。

以上